

北海道浮魚ニュース

令和3(2021)年度8号

2021年7月30日

道総研 釧路水産試験場

ホームページ：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

◎第1回太平洋スルメイカ長期漁況予報発表される

7月30日、水産研究・教育機構より第1回太平洋スルメイカ長期漁況予報が発表されたので概要をお知らせします。今回は太平洋海域を対象とした漁期前半(8~9月)の予報です。

なお、この予報は国及び太平洋側道県の水産研究機関が参画し、水産研究・教育機構がとりまとめを行いました。予報文の全文は以下のサイトでご覧になれます。

水産研究・教育機構 (<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease>)

「我が国周辺の水産資源の現状を知るために」 (<http://abchan.fra.go.jp/>)

今後の見通し (2021年8~9月)

対象魚種：スルメイカ

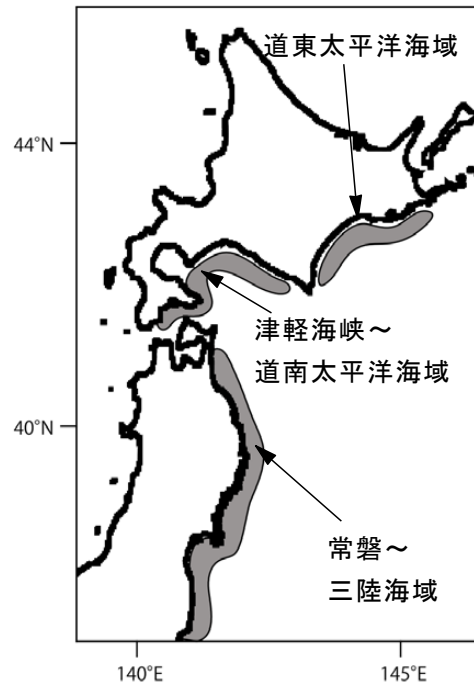
対象海域：太平洋(常磐~三陸海域、津軽海峡~道南太平洋海域、道東太平洋海域)

対象漁業：いか釣り、底びき網、定置網、まき網

対象魚群：冬季発生系群(2021年級群)

- ・道東太平洋(いか釣り、底びき網)：来遊量は前年を下回る。来遊時期は前年より遅い。漁場形成は散発的で明瞭な主漁期はない。魚体は前年より小さい。
- ・津軽海峡~道南太平洋海域(いか釣り、定置網)：来遊量は前年を下回る。対象期間を通じて漁場となる。魚体は前年並。
- ・常磐~三陸海域(いか釣り、底びき網、定置網、まき網)：来遊量は前年を下回る。対象期間を通じて漁場となる。魚体は前年より大きい。

※文中の「前年」は2020年のことです。



・漁況は5月下旬~7月上旬に実施した太平洋第1次漁場一斉調査(釧路水試調査分は浮魚ニュース第5号参照)及び道総研・函館水試による日本海スルメイカ北上期調査(浮魚ニュース第4号参照)の結果(以下「いか釣り調査結果」と、各港の漁獲状況から予測されました。

・いか釣り調査結果から、太平洋を北上して来遊する群れの来遊量、及び日本海から津軽海峡を通じて来遊する群れの来遊量はともに前年を下回ると予想されます。

・親潮から南側に向かっての冷水の張り出しは平年並みからかなり北偏で推移し、道東太平洋の水温は前年より低くなると予想されています。

・太平洋でのいか釣り調査結果から、魚体サイズは常磐~三陸海域では前年より大きく、津軽海峡~道南太平洋海域では前年並、道東太平洋海域では前年より小さいと考えられます。

(釧路水産試験場調査研究部 TEL：0154-23-6222、FAX：0154-23-6225)